

定

一 此度、中町市場衆申立候様ハ、五拾年以前「市立始り候時分より、石座こくざ之儀次左衛門屋敷半分」平太夫・三右衛門石座ニ相究候処ニ、連みだりく石座みだり狼ニ罷成候間、先年御代官諸星庄兵衛様へ御訴訟申上候得者、先規之通りニ被レ仰付候処ニ、四兵衛へ御訴訟申上候得者、先規之通りニ被レ仰付候処ニ、四兵衛へ商人ニ而レ先規之石座之商人ヲ皆々手前江引取申候、毎度四兵衛方へ断ことわり申候得共、用不レ申候間、先規之通りニ被レ仰付可レ被レ下候由 御知頭様江訴状(地)指上候由、申立候事

一 四兵衛申立所ハ、拙者所へも以前石売付申候故、先年一切之居座狼ニ御座候時分、「御代官諸星庄兵衛様へ御訴訟申上候刻、拙者も平太夫と同道仕候而罷出候、先規之通りニ被レ仰付被レ下候時分より、弥々拙者(破損)所へ石売付置、只今ニ至迄石売付申候所、諸人御存知之」前ニ而御座候、人々の石商人を取申様ニ仰被レ立候得共、他領之商人ヲ自由ニ取やりハ罷不レ成候、拙者所へ参候商人ヲ追出し申儀ハ罷不レ成候間、其通りニ仕罷有候由、申分候事

一 如くだんの件申立候得者、双方共ニ理明白ニ有レ之候間、「所之寺并

ニ室田上下之名主・年寄相談以、「双方へさまくいけんいたし、御知頭様へ」御訴訟申上候、御裏判被レ下候目安申請候而、「取

扱相済品々

一 石座之儀、南川(側)次左衛門屋敷右藤右衛門迄、北川(側)平太夫方四兵衛迄石座ニ相極候、但シ中みせを「停止いたし、両方ひとへニ可レ置レ之、只今之石売(石前)相休申不レ出者も可レ有レ之、新きに石商人」出来申事も可レ有レ之、両川五人之者共「石座ニ相極上ハ、向後面々之才覚次第ニ」石商人を引付ケ、市繁昌いたし候様ニ可レ仕、「末々ニ罷成石商人大勢罷出候而両川ニ」余り候ハ、市場衆へ相断、中みせニも可レ置レ之」事、但シ四兵衛長や之前ニ者、石うり可レ不レ置レ之、藤右衛門所屋敷半分石座可レ為事一石之外一切商売物、先規居座少も相違有レ間敷候、為レ其市場之者共、順番ニ市之月(つぎ)行事を相勤、毎市廻り、若相違之儀有レ之候ハ、其宿へ急度相断、他領之商人ニ者言葉を「やわらけ、不足無レ之様ニ申、先規之居座へ」可レ付レ之、此度之扱之儀ハ、江戸 御知頭様江(裏)夫僧差上候而、御うら判被レ下候目安申請候時分、「以来再発無レ之様ニ、取扱相済シ可レ申候由、仰被レ下候」得者、御知頭様御下知同前之間、若此度相定済候所を不レ用、我俣申者於わがま有レ之ハ、名主・年寄へ相断、所を追払可レ申候、名主・年寄」之下知請不レ申候ハ、御公儀様へ可レ申上候事、仍而扱之者共連判、「如レ件

次第不同

長年 寺判 大林 三左衛門判

松仙 寺判 江戸村 次左衛門判

明照 寺判 町 権兵衛判

寛文拾庚戌年四月十六日

(後略)

中村 善兵衛判

町 七郎兵衛判

木戸原 弥兵衛判

町 太兵衛判

大久保 与左衛門判

□やつ 利兵衛判